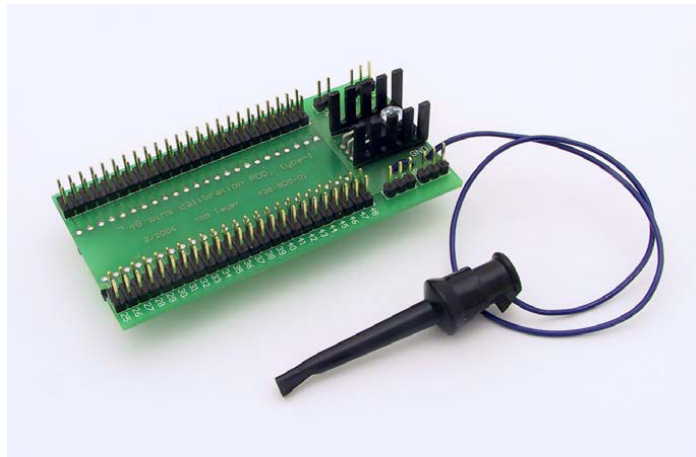




User's Manual

48 Pins Calibration test POD, Type I



48 Pins Calibration test POD, Type I

48ピン・キャリブレーション・テスト POD, Type Iは48-ピン・ユニバーサル・プログラマーとマルチ・プログラマーの校正の状態をテストするために設計されています。

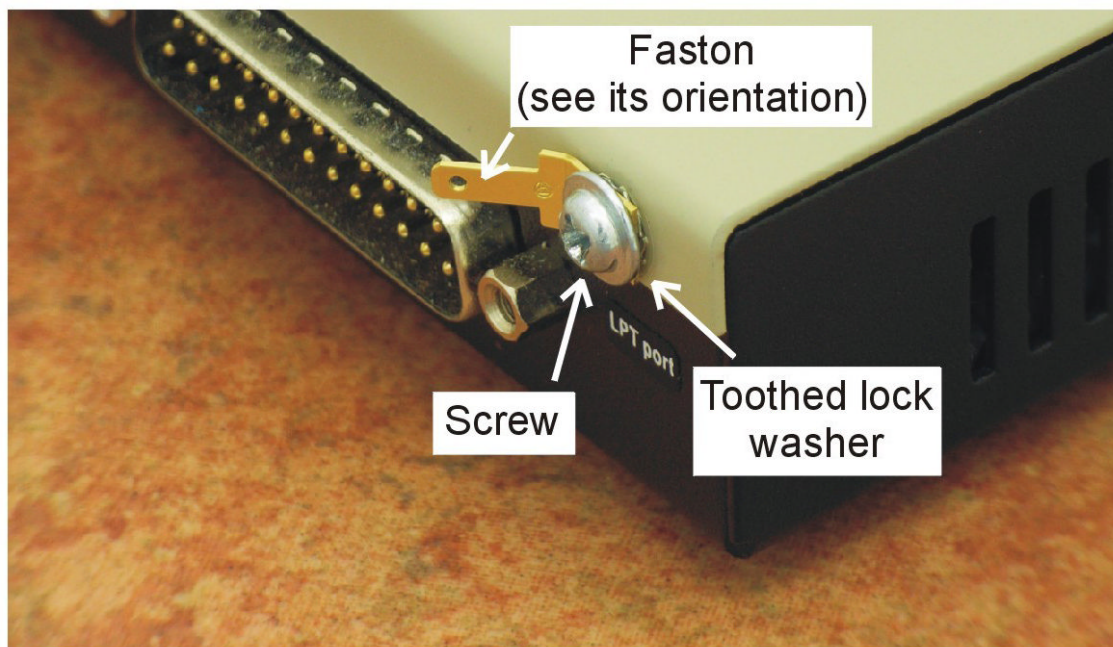
48ピン・キャリブレーション・テスト POD, Type Iを使ってプログラマーのキャリブレーション・テストを行を行うためには正確なボルト・メータ(マルチ・メータ)と/又は、オシロスコープ(プログラマーの内部周波数をチェックするためにはオプションです。)が必要です。

48ピン・キャリブレーション・テスト POD, Type Iの付属物

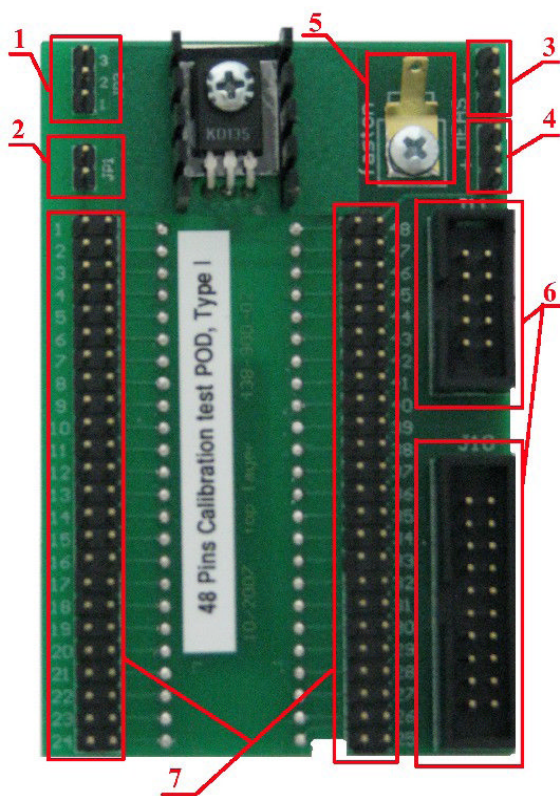
- ・ 48ピン・キャリブレーション・テスト POD, Type I
- ・ プログラマーのアース点のためのファーストン・トゥース・ロック・ワッシャー

プログラマー・ケース上のアース点のマウント手順(ISPコネクタのないプログラマーの場合はオプションです。)

1. プログラマーから電源と通信ケーブルを抜きます。
2. 接続点のためにプログラマーをベンチに置きます。
3. プログラマーの裏側の上端からネジを外します。どのネジも外すことができます。(マルチ・プログラマーの場合はプログラマーのセンターに近いネジを外すことをお勧めします。)
4. ワッシャーをネジに取り付けプログラマー・ケースに止めます。ワッシャーの方向は下記の画像の通りの方向にし、強く締めて下さい。

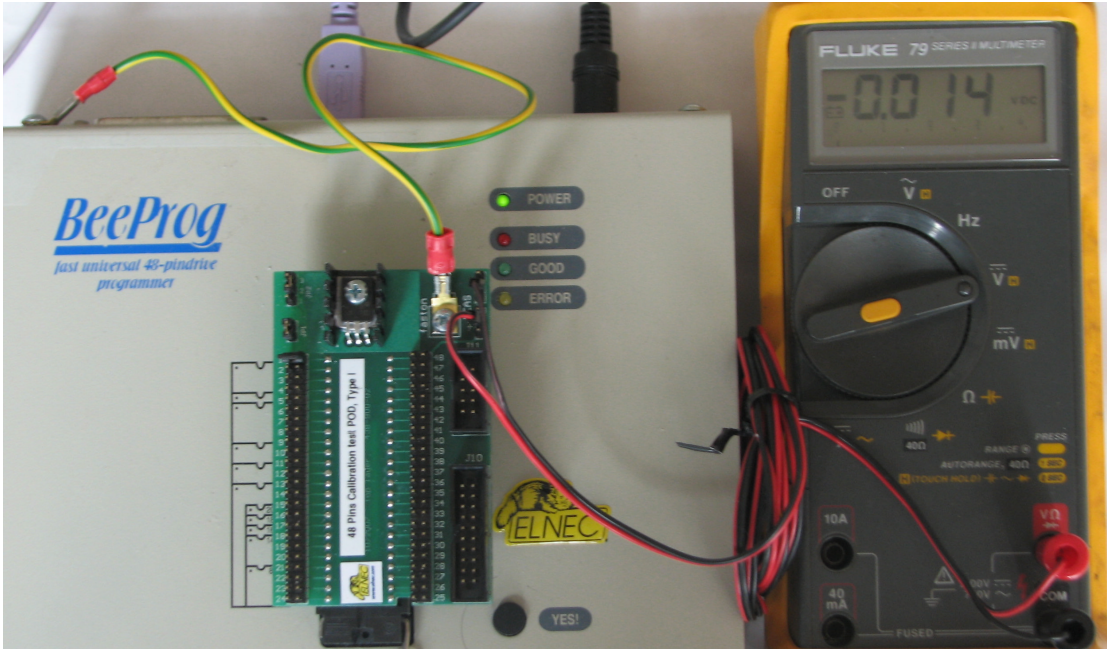


48ピン・キャリブレーション・テスト POD, Type I の説明



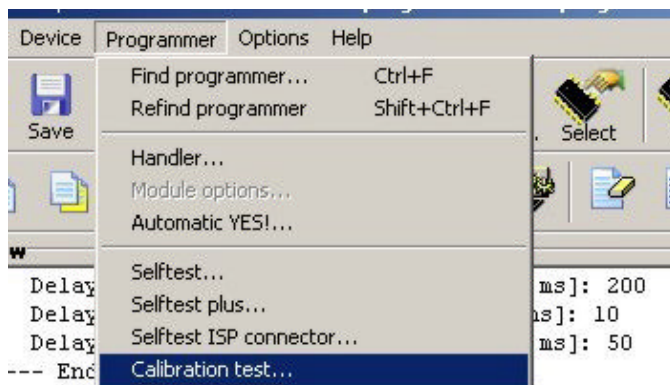
1. ジャンパーJP2 はキャリブレーション・ポッド上に供給する電流のソースピンを選択します。
ピン1~47の電圧測定時はJP2の2-3ショート、ピン48の電圧測定時はJP2の1-2ショートで使用します。
2. ジャンパーJP1 はキャリブレーション・ポッド上にある電流負荷を、プログラマーのテストするピンと接続します。ジャンパーのデフォルト位置は「接続」です。
3. Meas- ワイヤラップを電圧計のコモン端子と接続します。
4. Meas+ ワイヤラップを電圧計のプラス端子と接続します。
5. アース・ケーブルのためのファストン(プログラマーにISPコネクタが無い場合、アース・ケーブルはここに接続します。)
6. ISPケーブルのためのコネクタ(ISPケーブルを経由してプログラマーにPODをアースします。)
7. プログラマーのテストされるピンに接続された48ジャンパーはキャリブレーション・テストPODのテスト回路に載せられます。

次ページの画像を参考にして下さい。



プログラマーのキャリブレーション・テストの為の手順

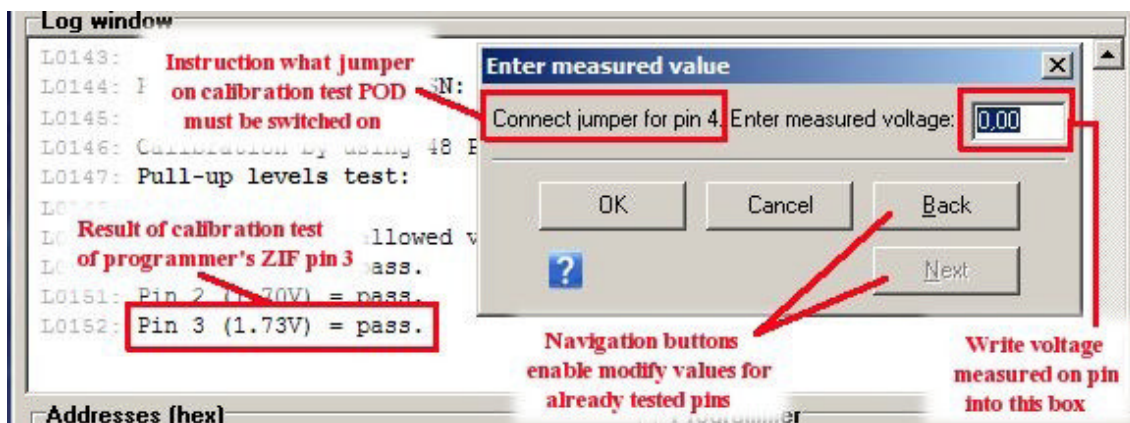
- ・ 48ピン・キャリブレーション・テストPOD, Type IをプログラマーのZIFソケットに挿入します。
- プログラマーの内部接続されたISPコネクタをISPケーブルを48ピン・キャリブレーション・テストPOD, Type Iの正しいコネクタに接続します。もし、ISPコネクタを持っていないプログラマーの場合は、キャリブレーション・テストPOD, Type Iのプログラマーのケースのアース点マウントに接続して下さい。
- ・ コマンド**Programmer / Calibration test** を実行し、キャリブレーション・テストを開始します。



- ・ プログラムはキャリブレーション・テストを開始する前にしなければいけない指示を表示します。
- ・ キャリブレーション・テスト・プログラムの実行中にテストされた電源ソースと許可される電圧間隔をログに書き込んでいます。



- ・ プログラムはどのジャンパーがテストされるピン上の電圧レベルを測るために切り替えなければいけないかを指示します。



表示ウィンドウズのボックスにピンで測定する電圧を入れて下さい。測定後、電圧値が入力されプログラムはそのピン

の結果をログ・ウィンドズに書きます。

- ・ 測定された電圧ソースは期待電流で負荷されなければいけません。この場合、プログラムは正しいテストのために48ピン・キャリブレーション・テストPOD, Type I上のどのジャンパーに切り替えるべきかを指示します。
- ・ オプションで、ソフトウェアはプログラマーのいくつかのタイプに対しては内部周波数の正確さをチェックすることが出来ます。この周波数キャリブレーション・テストは強制ではありません。この機能はSW Ver. 2.65以降から使用可能です。
- ・ 全てのピンと電源ソースがテストされたとき、プログラムはキャリブレーション・テストからのレポートをどうするかを選択が出来ます。(レポートはテキスト・ファイルと/又は、印刷、キャンセルすることが出来ます。)
- ・ キャリブレーション・テストはEnter measured valueウィンドウからCancelボタンでいつでも放棄することが出来ます。